

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

先日の高校生の大会での出来事です。アンパイヤーは先生がしていました。

ラリー中、ベースライン際に打たれたボールに正審は「アウト」の判定をしました。その直後に、アウトと判定されたプレーヤーから、「『イン』ではないか。」との「質問」が出されました。しかし、相手のプレーヤーがボールの落下点に近づき痕跡を消してしまったので、正審はイエローカードの提示のみを行いました。

この場合、インターフェアにはならないのでしょうか。

Answer

プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点に近寄って痕跡を消した場合は警告（イエローカード）とともにインターフェアとみなし失ポイントとなる

そうですね。正審からイエローカードが提示されたようですが、大きな問題点を見逃していたようです。それは、ご質問の通りボールの痕跡を消したことがインターフェアになり失ポイントとなることです。

2004年度に競技規則改訂（ソフトテニスハンドブックが競技規則・審判規則・大会運営規則）により、競技規則第40条（異議の申し立て等の禁止）[解説17]の2、「プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点を確認するため、ネット及びネットの仮想延長線を越えてはならない。また、自陣の前であっても落下点に近寄ってはならない。」に違反したとみなされ第41条の警告（イエローカード）の対象扱いとなりました。更に、[解説17]3のプレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点の痕跡を消す事を禁止する。もしプレーヤー（監督・コーチを含む）自身が消した場合はインターフェアとみなし失ポイントとすることが明記されていることです。

この度のご質問は、同時に二つの違反を犯したことになりますが、正審をされた先生は、一つのことだけに判定を下し、もう一方には触れていませんでした。

昨年審判委員会が審判技術マニュアルのDVDを作成し、各ブロック1級審判員研修会や各支部で審判の正しい普及に役立てていただいている内容の中に、その事例があります。ご覧になられたでしょうか。今後は、十分注意してプレーヤーもアンパイヤーも正しい判定を下せるようにソフトテニスハンドブックの理解と審判技術の研修・研鑽をお願いします。



【関連規則】

競技規則第40条（異議の申し立て等の禁止）

プレーヤーはプレーの進行及び判定に関し、アンパイヤーに対して異議を申し立て、又は結果を不服として故意にプレーを中断してはならない。

2. 前項の規定は、プレーヤーがアンパイヤーに対して質問することを妨げるものではない。ただし、質問に対する結果については、前項の規定を適用する。

【解説17】2. プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点を確認するため、ネット及びネットの仮想延長線を越えてはならない。また、自陣の前であっても落下点に近寄ってはならない。

3. プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点の痕跡を消すことを禁止する。もしプレーヤー（監督・コーチを含む）自身が消した場合はインターフェアとみなし失ポイントとする。

競技規則第41条

第15条、第38条及び第40条に明らかに違反したと認められる場合、正審はプレーヤー（団体戦の場合は部長・監督・コーチを含む）に対し警告（イエローカード）を与える。